

平成29年度「留辺薬まちづくり協議会」(第1回)会議録要旨

◎ 日時	開催日時 平成29年4月20日(木) 18:02~20:06
◎ 場所	留辺薬町公民館 1階 小ホール
◎ 出席者	協議会: 12名(横田会長、稲村副会長、荒委員、石田委員、菊池委員、坂口委員、高野委員、武田委員、立垣委員、千田委員、野瀬委員、古川委員)
	北見市: 五十嵐留辺薬自治区長 安井留辺薬教育事務所長 鎌田留辺薬総合支所 産業課長 海鉾留辺薬総合支所 市民環境課長 川越留辺薬総合支所 温根湯温泉支所長 福浦留辺薬総合支所 保健福祉課長 北向留辺薬総合支所 静楽園長 細川留辺薬総合支所 建設課長 大林留辺薬教育事務所 生涯学習課長
	事務局: 飯塚留辺薬総合支所長 奥原留辺薬総合支所 総務課長 今野留辺薬総合支所 総務課地域振興係長 村田留辺薬総合支所 総務課地域振興係
	傍聴者: 1名

開 会

事務局 (総務課長) 開 会 (18:02)  
それでは、ただいまから平成29年度第1回留辺薬まちづくり協議会を開催いたします。  
開催にあたりまして、横田会長から、ご挨拶をお願いいたします。

横田会長 お晩でございます。先般懇親会を行いました。沢山の皆様にご出席をいただきましてありがとうございます。  
皆さんと交流を深めることは非常に良いことだと思っておりますので、また暖かくなりましたら行いたいと思います。  
さて、懇親会の席でも申し上げたのですけれども、今、北見市の行政の関係について、いろいろと皆さん方とお話をしていかなければならない課題が沢山あります。  
今日、NHKのテレビでやっていたのですけれども、15年後には3軒に1軒は空家になるということで、空家対策の関係でテレビで報道されました。





初めに、昨年、音楽鑑賞事業に対しまして採択いただきましたことを先ずお礼申し上げます。今、皆様にお返ししている資料にもありますが、当会の事業を北海道新聞や伝書鳩、NHK 北見放送局のテレビ、ラジオにも取り上げていただきました。

28年度的一般公演は、5月にヒダヤスナル、9月に太鼓マスターズと2公演行いましたが、どちらも町内はもとより、町外からも多くのお客さんにご来場をいただきました。

昨年より小学生以下の無料招待を行っております。小さなお子さんが音楽に合わせて体を動かしたり、ステージに向かって手を振る姿が大変微笑ましかったです。5月の公演の際には、白花豆くらぶ様からご提供をいただいた白花豆の種をお客様に配布させていただいたことで、遠方からいらした方々にも留辺薬の特産品をより知っていただけたと思います。

一般公演後のアンケートでは、ご回答いただいた方に、大変満足だった、来年が楽しみ、これからも継続してください、などと嬉しいお言葉をいただき、活動の励みになりました。当会の目標としている年齢を問わず、プロの音楽の素晴らしさを体感していただけたのではないかと実感しております。

また、間もなく閉校を迎える瑞穂小中学校への出張音楽事業も行いました。音楽とふれあうことで、生徒さんの在学中の思い出となっただけであれば幸いです。

それから、留辺薬の小中学生を対象にした学校公演では、太鼓の歴史を教えていただいたり、迫力ある和太鼓の演奏を目のあたりにし、昨年に引き続きアンコールのかけ声がかかり、終演後も手拍子が鳴り止まないほど生徒さん達に喜んでいただき、演者の方々もこの盛り上がりで大変喜ばれておりました。

感想文では、太鼓を始めてみたいと思った、音楽が楽しくて好きになったとのが書いてあり、ライブの迫力を感じてもらえたと安堵したところがあります。

ここで詳しい学校公演の報告を留辺薬小学校の新熊教頭をお願いいたします。

夢のミュージックプロジェクト・留音の会

留辺薬小学校教頭新熊です。よろしくお願いします。昨年9月に、太鼓マスターズの方による学校公演を行いました。留辺薬小学校をはじめ、留辺薬自治区内の小中学校の児童、生徒が参加して太鼓マスターズの公演を聴かせていただきました。

初めは、太鼓ということだったので、どうなのかなと思ったのですが、さすがプロの演奏者ということもあって、ものすごい迫力に圧倒されて感動を深めたのかなと思います。

子ども達の感想の中には、大地が揺れるようにすごかった、元気をもらってとてもよかった、というような感想文もありましたし、本当にその場において私自身も震えるといえますか、ものすごい迫力に圧倒されて、日本の和太鼓だけではなくて世界のいろいろな国の太鼓を紹介していただいて、世界中の太鼓を知ることができたということで、大変国際理解の勉強になったという感じがしました。

本当に素晴らしい公演で、小学校児童だけでなく、留辺薬自治区内の小中学生にとっても実りのある事業だったなと思っております。

夢のミュージックプロジェクト・留音の会

また29年度も皆さんに元気と感動を与える音楽をお届けできるように会員一同頑張っていますので、よろしくお願いします。以上で留音の会の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

## 質疑・意見

- 横田会長 質問があるかどうか分かりませんが、ご意見等がありましたらどうぞ。
- 荒委員 今、話があったように、子ども達を含めて、地域の方に大きな意味があったと思います。非常に大事な役割を果たしているなと思いますので、是非来年度も頑張っていたきたいなと思います。
- 菊池委員 今、大変良い報告を聞かせていただいたんですが、これからの問題として何か感じることはありませんか。
- 夢のミュージックプロジェクト・留音の会 やはりより多くの地元の方々に、ご来聴いただきたいなと。この公演のときは、町外の方が2割から3割いらしていただいたんですね。もっともっと地域の留辺蘂自治区の方々にもご来場いただいて、見て感じていただきたいなというふうには思っています。
- 菊池委員 今、ここで聞いていると、結構若い人が多かったということなんだけど、お年寄りに対してはどのようなアプローチをなさったのですか。
- 夢のミュージックプロジェクト・留音の会 お年寄りも結構来ていただきました。太鼓の時も80代の方とかも何人も来ていただいて大変喜んでいただきました。

五十嵐自治区長 1つ課題がありまして、スポーツセンターでやっていただいたんですけども、私も聴きましたけどすごかったんです。天井からヒュルヒュルと。今度は難しいかなと思います。

夢のミュージックプロジェクト・留音の会 今後は、公民館を使うということにしました。

横田会長 皆さん見ていない人がほとんどですか。そういうことで地元の皆さん方いろいろと声かけしていただいて、協力していただくということで、ご苦労様でした。

## 「白花豆 PR 事業」

横田会長 続きまして、るべし白花豆クラブの「白花豆 PR 事業」について報告をお願いします。

るべし白花豆クラブ 皆様こんばんは。白花豆クラブの「白花豆 PR 事業」ということで参りました。大江本家の須藤と申します。ペーパーで配布しておりますように回覧していただきたいのが、メディア掲載資料になります。

協議会資料にもまとめていただいてありますけれども、70万何がしという貴重なご資金をいただきまして、つつがなく様々な事業を行うことができました。今、

配布しました資料に基づいてお話をいたしますが、昨年度は5つの事業でございます。

まず1つ目は、白花豆の種豆セットというものをお配りするという事業をいろいろやりました。

2つ目が植栽活動。3つ目がハチミツの採取体験会。4つ目が白花豆の観察会。5つ目がおんねゆマルシェでございます。写真のページからご覧いただきたいと思っております。

種豆セットの配布というのは、5月5日のおんねゆ温泉つつじ祭りをかわきりに、ロードレースや留辺薬みどり祭りから始まって、最終的には、今年の冬のおんねゆ温泉観光協会のイベントでも配布しました。

先ほど、高野さんからの報告のとおり、いろいろなイベントから豆を分けてよという声を沢山いただいて、北見子ども国際映画祭ですとか、ロータリークラブの会ですとか、留辺薬商工会議所様の札幌キャンペーンですとか、いろいろな所に種豆が飛び交っていているのかなというのは思っております。

2番目の植栽活動については、これも昨年、前年から同じなんですけど、白花豆のアーチづくりということで、花えーるの27反ほどの畑をお借りしての耕作と、アーチを作ってツタを張らせるようなことを行いました。

この写真の5番目は、温根湯中学1年生の総合学習の一環として竹刺し体験というのを行いました。

6番目の写真は、二才積みという体験を秋にさせていただきました。教育のかかわりも持つことができたので、今年度も引き続きこういうこともやっていきたいと思っております。

写真の7、8はアーチで、8は北の大地の水族館前のアーチでございます。次のページの9番目からは、プランター大作戦と我々は名付けておりますけれども、グリーンカーテンづくりということで、お庭がなくてもプランターで豆はできますよということで、ここでは留辺薬商工会議所様の千田さんが水やりを一生懸命やっていただいて、この中では1番葉ぶりがいいのかなと思っております。

同じ南向きでも大分違いが出るのかなというのは愛情のかけ方にもあるのかなと。プランターが結構、去年もうちにも置きたいとか、あそこにも置いたらという声もありますので、このへんも今年度、事業展開していきたいと思っております。

3番目の事業としましては、白花豆のハチミツ採取体験会というのを行いました。これは、初めてのことでございます。この時期、岐阜県から種田さんという養蜂家がずっと昔から、滝の湯に来られてハチミツを採っております。

種田さんが講師役として公募で呼びかけたところ、結果的には親子12名というような感じの集合写真ですが、実際にはハチの巣箱を取ったり、円心分離機でハチミツを採ったり、こんなようなタイプのものをしました。

4番目の白花豆の観察会。8月28日に花えーるで行いました。これは29名という参加者で実施いたしました。

5番目の事業として、おんねゆマルシェを道の駅おんねゆ温泉で10月16日に開催しました。当くらぶのこれからの核となるイベントかなと思っておりますが、採れたて野菜やいろいろなスイーツを使ったりということができました。

このおんねゆマルシェの写真の1番左の下は辻市長がお越しになっていただいて、これは森谷会長とお話になっていますが、これをきっかけにオホーツクビール

様で限定で白花豆の料理を出す何ていうような話も、この時に始まったと伺っております。いろいろな所ですそ野が広がっているなと思っております。

写真はありますが、6番目がメディア掲載事例ということで今、回覧していただいている1つは、エアトリップ北海道美味しい一人旅というテレビ番組が本になった書籍。

2つ目は、農業応援隊という、これも業界の話ですけど、エアドゥの機内誌にも掲載されております。

以上、簡単で早口ですが、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

## 質疑・意見

横田会長                    それでは、皆さんの方からご意見等をよろしくお願いします。

高野委員                    蜂蜜体験の12名の皆様の反応は如何でしたか。

るべしべ白花豆くらぶ      初めてのことで、先ず帽子をかぶることから始まりまして、テレビ等では見てたとは思いますが、楽しそうに。当然全部写真は撮りきれませんが、テント越しにハチ箱から巣を取り出すようなところも見ていただいて、生き生きと楽しそうに夢中になって、私も実は夢中になってしまったというところです。楽しい体験でした。

高野委員                    採れたハチミツは皆さんで。

るべしべ白花豆くらぶ      そうなんです。小さい瓶に入れ、ラベルも自分で貼ってもらい、最後、完成品として一つずつお持ち帰りいただきました。

高野委員                    何でも体験というのは良く、引き続き頑張ってください。

るべしべ白花豆くらぶ      今年もできればという願いはしておりますけども、種田さんも少ないスタッフということもあるので、隔年でもいいからという話はしております。

昨年は8月の台風の影響等もありまして、平年の収穫量が7割ということで、大打撃です。なので、白花豆をPRしても、どこで買えるんだという逆にクレームになりかねない状況が今ございまして、JA きたみらいの方とも話をしますが、こればかりはいたしかたないのと、既存の取引先に、ある意味内地とか、関西に全部出ていってしまって、大江本家の売店でも生豆がないと。白花豆もハチミツもないということで、嬉しいやら何やらと。ちょっとそんな状況です。

荒委員                      温根湯中学校の子ども達が、自分達の住んでいる地域で白花の大事なことを体験しているということはずごく意義がありますね。

子ども達がどのような反応だったのかというのが1点と、なかなかこう白花をつくる人は手間もかかりますから、そういう面で大変だろうと思えますけど、これからどのような状況になっていきそうなのか、お聞きしたいなと思えます。

るべし白花豆くらぶ

植栽活動を先ほど話した27反ほどの畑なんですね。豆の植え付け自体は農家さんが、最後自分達の畑が終わった後にやっていただきました。

竹刺しの1週間ほど前に私が温根湯中学校に行って、先ず1時間半ほど講義をしたんですね。今2年生になりますけど、女の子が4人しかいないんですね。今年の1年生はもう少しいるようなんですが、しかも4名の女性は皆農家さんではなくて、やはり見てはいるけど、勿論やったことがないと。竹刺しは初めてで、この時ばかりは、私も知られないので、農家のメンバーに2人ほど来ていただいてやりました。

コツをつかむと、なかなかキャッキョとはしゃぎながら、農家さんの話をよく聞いて、ちょっとしたそんな微笑ましい場面もありました。二才積みというところも勿論体験していただきました。

この後、スイーツまで作ったそうで、できたスイーツを我々メンバーに持って来ていただいたという、正に食育のようなことを、この時学校の先生がやっていただいて、実は、校長先生も転勤なさったのですけれども、本年度もできればやらせてくださいというオファーはしております、この部分は本当に必要なのかなと思っております。

横田会長

それでは、ご苦労様でした。

#### 「かかしプロジェクト事業」

横田会長

続きまして、かかしの会の「かかしプロジェクト事業」について、黒澤さんからお願いします。

かかしの会

それでは、かかしプロジェクト事業についてご報告をします。去年4年目ということで、もう皆さんは毎年ご覧になっているとは思いますが、

特に去年は、少しアートの部分も付け加えようということで、昭栄におられる小野塚さん、美術館をやっておられた方で今は閉めているんですけど。

作品を売っていませんから、お願いをしましたら、昔、三喜寿司というのがあって、あそこのアーケードの所に作品を並べてみたり、大江本家さんがつくっている紙粘土というか、新聞紙でロウと混ぜたものも、7月30日に並べたんですね。

メインは、ゆめ広場を使っているんですけども、去年、温泉まつりが8月7日ということで、7日はよさこいや神輿があったため、アーケードとか、温泉通りにキャラクターのドラえもんとか、前年つくっていたものを並べました。

それから、子ども達がつくったキャップアート。これは2条橋の所に土手に沿って邪魔にならないように設置しました。

温泉まつりの時には、これに書いてあるように、アーケード街はそれを見て大変賑わったと書いてあるんですが、本格的には、8月7日の温泉まつりが終わってから8日に皆でそれぞれがつくった人形を並べました。

そうしましたら、9日に台風5号が来ました。それでせっかく出したのが、大雨で一部流されたんですね。あの時にはまだ道路までは水は来なかったんですが。

土手の立てている所までできて、私が次の日に行って全部流されたものを拾っ



て立てたりして、泥のついたものなどは直したんです。

そうしましたら、その後、6号、7号、11号、9号、10号と6つ台風がきたんです。なんといっても、外に設置しているし、つくっているものが紙粘土だとか、そういうもので、支えているものは木です。雨にはとても弱いんですよね。

行灯も水が入らないようにしたんですけど、それも大分やられたり、風の被害もありましたが、何よりも雨の被害が酷かったです。

最終的には8月20日に避難勧告が出されました。あの裏から、2条通りまで、丁度かかしが公園の前まで大水がたまわって、大分流されたんです。そういう点で非常に去年は心が折れる。朝見に来たいということもあったけど、何せ台風にはからっきし弱いなということで、やっている人も大変な夏でした。

温泉ゆめ広場の奥には足湯があって、あそこで結構夜中に人が集まるんですが、かかしにいたずらをすると。

あの行灯には、中に電球を入れてあります。夜暗くなったら電気をつけて、当番を決めて夜10時になったら消すという作業をしているんですけど、ただ置いていただけですから、何個か盗まれました。

それから、夜中にゆめ広場の中に車で乗り上げている人もおり、かかしを倒したり、移動したりとか、そういうことがありました。

かかしプロジェクトは、あれだけ有名になった水族館を応援しようということで始まったんですけど、ドンドン会員が増えていくかと思いきや、ドンドン減っているんですね。製作する人も段々減ってきて、継続することの大変さということを感じていまして、反省会でも、去年はそういう意味でズタズタになりまして、来年やりたくないというようなことも出ました。

お蔭様で、今までの分の蓄えが、いろいろな材料とか、買った部品だとか、スタイルホームとか残っています。今、捨てるだけのものがあるので、何とか今年はやります。ただ、補助金はもらわないで、今まである分でやりましょうということになりましたので、今年は申請をいたしませんでした。

でも、今年は水族館が周年ですから、何とかそれに花を添えれないけど、少しでも役にたてようと思って、やることはやります。

## 質疑・意見

横田会長

ただいま、かかしプロジェクト事業についての報告がありました。何となく大変だった思いがヒシヒシと感ずますね。意見等がありますか。

古川委員

とてもマツコテラックスさんとか、川辺のホテルに向かったベンチに、本当なのかしらと見に行く人が結構いたんですよ。あの企画も素晴らしいなと拍手をします。続けてください。

かかしの会

皆、良いという人ばかりでなく、気持ち悪いという人もいます。

古川委員

かかしじゃなくて、本当に座っていらっしゃるのかなというぐらいリアルに見えて。

- かかしの会                    あれは遠くから見るには良いみたいですね。
- 古川委員                    本当に見に行きましたよ。
- 荒委員                    ゆめ広場にはなくてはならないという感じがあるんでないかなと。
- かかしの会                    そういう声があるので、それを励みにやらないと淋しいとか、ここは賑わって良いねとか、そういう街の人も声をかけてくれるので、それが力にはなっています。
- 高野委員                    この参加者のところに、作製の人数が295名とありますけど、今までと比べてどうだったのですか。
- かかしの会                    これは延べということで、1番多いのは子ども達なんです。子ども達が児童館で、10何人かで、夏の間ずっとキャップアートをつくっていたんです。  
それを指導しているのが、前の総合支所長の奥さんの赤間さんで、パネルに設計図を書いて、ディズニーのキャラクターをやったり、かなり大きいものでペットボトルでタワーをつくったりしていただいているんですが、これが1番大きいんです。  
ですから、半分は子ども達です。あとは、行灯づくりを奥さん方をお願いしています。延べでそれぐらいになりますけど、参加している人は極々少ないです。  
かかしをつくっているのは、あまり若い人はいないですね。ドンドン高齢化して、本当は農家の奥さん方を巻き込みたいんですが、この時期は忙しくてできないんですよ。農協青年部にも2年ほど手伝ってもらったんですけど、やっぱり時期的に作業がかかるので難しいですね。
- 高野委員                    今年度は申請しないということで、本当にボランティアでやるのですか。
- かかしの会                    あとは会費です。会費は会員を募集して、定期的に会員になってくれる人は、つくらないけど、会費で応援するよという人がいるんですね。ですから、会費で十分できると思います。
- 横田会長                    私も手伝ってはいるんですけど、はっきりいって大変です。これはもし手伝える人がいれば手伝ってほしいなと思います。  
先ほど言った車で乗り上げるとなると、これは行政の方になりますので、これについては、警察に話をしてみ回りもちゃんとやらないと駄目だと思います。  
プロデュースの黒澤さんご苦労様でした。  
取り敢えず3団体をお願いしておきますけど、まちづくりのここにいる皆さんは、全員皆さん方に協力をするという気持ちは皆持っていますので、できるだけ行政とまちづくりの皆さん方には是非声かけをしてほしいんです。  
今、パワー支援事業というのは非常に重要な事業です。これは北見もいろいろやって話をしているんですけども、皆さん方が集まった時、総会でも何でもいいんですけど、そういう時に、五十嵐自治区長や、飯塚総合支所長を含めて、私達も勿論当然入っていいんですけど、いろいろと皆さん方とコミュニケーションをとらせて

いただきたいなと思って要望だけしておきます。

そうやってお互いにやっていかないと、これから、留辺蘂の場合はなかなか大変ですので、皆さんお若いですから、是非そういうことで協力し合うということで、お願いをしたいと思います。

横田会長

参加者の皆さま方については、どうもご苦労様でした。

それでは、28年度まちづくりパワー支援補助金交付事業の実績報告を終了させていただきます。

議 案

「 (2) 平成29年度予算概要について(報告) 」

横田会長

続きまして、報告の(2)平成29年度留辺蘂自治区関係分予算について入らせていただきます。

前回の協議会において、第9次実施計画と平成29年度予算の概要などについて報告を受けたところですが、今日は、自治区にかかわる予算について、それぞれの担当課長の方から説明をいただきたいと思います。

それでは、最初に事務局から資料について説明をお願いします。

事務局

それでは、別冊資料についてご説明させていただきます。

(地域振興係長)

前回の協議会では、留辺蘂自治区関係の事業も含めた市全体の第9次実施計画の概要等についてご報告をさせていただきましたが、今回の資料は、平成29年度の留辺蘂自治区関係分の予算を課ごとにまとめて形になっております。

本日は、この資料に基づいて各担当課長から予算の説明を行うこととしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

横田会長

それでは、皆さんのお手元には資料がいていると思います。留辺蘂自治区関係分の予算について担当課長から説明をしていただきます。

最初に、1ページの総務課から23ページの静楽園まで続けてお願いをいたしますが、できるだけ端折っていただければいいかなと思います。

それでは、総務課長の方からお願いします。

奥原総務課長

「 総務課長説明 」

鎌田産業課長

「 産業課長説明 」

海鉾市民環境課長

「 市民環境課長説明 」

川越温根湯温泉支所長

「 温根湯温泉支所長説明 」

福浦保健福祉課長

「 福祉課長説明 」

北向静楽園長

「 静楽園長説明 」

- 横田会長                    ただいまそれぞれの担当課長から説明がありました。  
ここでまず皆さんから質問を受けたいと思いますが、時間の関係もありますので、今説明があった部分のみで、皆さんの方からご意見も含めて、内容について質問を受けたいと思います。  
なお、どうしても聞きたいということがあれば、直接担当課長に話をした方がより具体的な回答が出ると思いますので、そのへんのこともお含みいただきたいと思います。
- 菊池委員                    スズメ蜂は、今度誰がしてくれるんですか。市民環境課に頼めばやってくれるんですか。
- 海鉾市民環境課長        そうです。
- 坂口委員                    昨年踏襲がほとんどだと思いますが、29年度留辺蘂自治区の目玉で新しく力を入れて立てた予算ですよというものを、教えてもらえたらありがたいです。  
特に山の水族館あたりが新しい事業でそれにあたると思うのだけど、他の課はどういうものを目玉であげているのか教えてください。
- 五十嵐自治区長            どちらかと言うと去年から引き続きやっていたということですね。
- 坂口委員                    一般の維持管理のために必要な最低限の予算がここに載せていますよということですね。
- 五十嵐自治区長            全体的には、新しい事業として、子育て支援、高齢者もありますけど、オシメの無料収集。6月1日からやるので、ここには載っていないですけど、全市的な取り組みです。
- 荒委員                      先ほど、黒澤さんが言われた台風で被害を受けて、防災の関係でいろいろ備蓄だとか、そういう関係は市全体で考えられているとおさえていいんですか。これは総務課にお聞きしたい。
- 奥原総務課長              防災の備蓄品に関しましては、総合支所費の中で購入するのではなくて、全市的に購入をして防災倉庫に補充をするような形になっております。  
去年の大雨を受けまして、北見の方では川に監視カメラを設置するとか、ドローンを4基購入しまして、それぞれの自治区に配置されるということで準備を進めているところでございます。
- 荒委員                      7ページにかかわるんですけど、留辺蘂の街は買い物も含めて大変だなという声をいろいろな所で聞いていて、私もそう思っているんですけど、産業課として、現状をどのように考えて、どうしようとしているのか。そのへんを聞かせていただきたい。

鎌田産業課長

今の7ページの補助金関係でございますが、これは旧町時代より行っておりました中心市街地活性化事業ということで、その中で商工会議所とか、商店街、大通り商業振興会が中心になって、商工会がやる事業として位置づけられたものの事業でございます。

その中に、市の職員も役員ということで、構成員として参加している状況にあります。

TMO 構想とか、中心市街地活性化基本計画というものに関しては、法律が変わって効果というか、強制力はないのですが、商店街の皆さんはやっぱり街中の活性化をめざして継続をしていくという意向のもと事業展開しているものに対して、市が補助しているというような状況でございます。

荒委員

現時点ではその程度でおさえておきます。

坂口委員

3月31日現在で、高齢化率がいよいよ47.5%と、2人に1人が65歳以上、昨年度の段階でいっても、60歳以上の単身世帯、老老世帯、これが50%になるよと。

それぐらいの留辺蘗自治区の特徴というか、問題があるのに、こういう29年の予算の中で、そういうことが反映されてこないというのは、我々まち協の伝え方があまりになさ過ぎるのかなということで、大いに反省しなければならないと思います。

因みに昨年で75歳以上は、3月31日時点で、25.1%いるんですよ。4人に1人が75歳以上。

だから、黒澤さんが言った、かかしプロジェクトも人的組織で交流で1番素晴らしい事業だなと思っていたけど、やっぱりそういう問題が根底にあって、つくる人達も集まらなくなっているんだというようなことも、根底で置かなきゃいけないんじゃないかなと。

特に最近で目立つのは、10代の子どもの減少率が異常に低くなってきている。今年だって、小学校1年生の入学が27名。温根湯がたまたま10名もいるんですよ。

そのへんのことも考えて行政としてもどうするか、留辺蘗自治区の職員としても、我々としても、もっといい知恵を出し合って活動していかないとまずいのではないかなと。このまま自然的に人が減り、若者は全然いない。そんな街になってしまうような気がして、非常に危機感を感じます。

横田会長

今のはご意見として伺います。

一旦ここで、今までの分を終了させていただいて、あと残り、建設課から。それでは、建設課長の方から説明願います。

細川建設課長

「 建設課長説明 」

安井教育事務所長

「 教育事務所長説明 」

## 質疑・意見

横田会長

今、それぞれの担当課長から説明がありました。前段の総務課から静楽園も含めまして、質問等の漏れのことも加味して質問を受けたいと思います。

荒委員

10ページの関係ですが、スポーツセンターが、先ほど使用がよろしくない。本当に、今のまま継続で大丈夫かなという不安が率直にあるものですから、そのへんについてどう考えられているのかなと。

今、坂口さんが高齢者の方のパーセントのことを言いましたけど、私でいえば旭3区の会館で何か行事をやるときに、まだそこに出て来る方はいいんですよ。

ところが、出て来るのも大変になってきていると。実質は孤立状態になるわけですよ。いろいろなサロンだとか、やってきていますけど、もうそれだけでは不十分になってきているという実態が、今、留辺蘆自治区の中ではあるんだろうと思います。

それから、これはどこで言っているのか分からないので言っておきますが、今回免許が75歳以上が認知症の関係で厳しくなりましたよね。それで、車検をどうしようかとか、免許の更新どうしようかとか。そうすると、病院に行けなくなる、買い物にも行けなくなる、金融機関を含めて大変になると。市の中で1番高齢化率が高いわけですから、そういうことをしっかり頭に置いて、今後、我々まち協としても考えていかんとならないと思いますし、総合支所としても是非一緒に考えていただきたいということをお願いしておきたいと思います。

それから、古い教員住宅が温根湯を含めて結構あるわけですが、管理はどうなっているのかなと。温根湯中学校のパソコン室が使えなかったというのがずっと続いていたんですが、今は使えるように改善されたのかどうなのか。

最後にスポーツ関係で、いろいろな行事をやっていますが、参加する人がどんどん減ってきていると。

そういう面で行事のあり方をもっと見直していくというのか、そういう時期にも入っているんじゃないかなということを思っているので、新年度は取り組んでいただければと思っています。

川越温根湯温泉支所長

相当古いということで、管理上は非常に問題がある施設です。スポーツセンターというふうに名を売っているんですが、これは設立当時から、経過を見ますと、観光コンベンションという性格が強いと。

ある程度、老朽化した段階で、スポーツ施設、いわゆる一般の体育館が担うような役割ではなくて、少年野球を中心とした冬期間の野球練習場に特化した形で使われていたということです。

合わせて、常駐する管理人がないということで、元々は支所だったのですが、福祉センターに移転したこともあって、それぞれの利用者が自ら解錠して、利用後施錠をして帰るといふ、そういう管理方式に改めて今日に至っているところです。

今現在の主な利用としては、温根湯地区の秋祭り、高齢者の長寿を祝う会の開催です。

長寿を祝う会については、保健福祉課の方で場所等を、検討されているようですし、合わせて、この先温根湯スポーツセンターをどのようにしていくかということについては、地域住民の方の意向もあると思いますし、合わせて、私の所だけでなく、教育委員会サイドのスポーツ関係団体等も含めて協議して、時間をかけて検討をしていくべきだと思っています。

飯塚総合支所長

古い教員住宅のことですが、温根湯小学校とか、旭公園町にある古い住宅については、今後入居はしないということで、取り壊しの計画をたてているのですが、なかなか予算づけがならないということで、市全体の教員住宅の古い所から直していくということで、留辺蘂の教員住宅については、まだ解体できないような状況です。

それから、温根湯中学校のパソコン教室につきましては、昨年28年度に屋根を一部直して、天井も張り替えたのですがけれども、一部雨漏りがするというので、今年度も合わせて改修をしていきたいというふうに考えています。

大林生涯学習課長

スポーツ大会の持ち方ということですが、今年、ソフトボール大会が50回目の節目ということもありまして、今後のあり方も含めて、振興会の方と協議していこうということは話しております。

昨年から、いろいろと自治区内のスポーツ大会の持ち方について、チーム数も減っているということなので、違う形でできないかということで協議を始めていますので、いただいたご意見を含めて今年度の事業実施に向けて取り組んでいきたいと思えます。

五十嵐自治区長

そういう動ける人は、まるっきり動けないといったら変ですけど、動くのが大変な人は施設という考え方があると思うんですけど、動ける人でも、足がないとかいうふうになる、これからなってくる可能性がある。独り住まいで、お父さんは免許証があったので、お父さんが生きていた間は送ってくれたけど、お父さんが亡くなって、足がなくなっちゃったという人も中にはいるかもしれないですね。

そういうことをどうしていこうかというのを、まち協の中で我々もいろいろやっていますので、提案させていただくこともありますし、あるいは、提案させていただいたことを叩き台に皆さんで話をして、2年後だったら50%に間違いなくなっちゃいます。

それをどうやって打開していこうかということをお話したいんです。

坂口委員

この前、地域ケア会議に行って、困難事例の人を中心に、社協、保健福祉課、我々業者とかが入って話し合いをしたんですけど、現実、在宅で療養しようと、道や国はそう言っているけど、実際、デイサービスに行くにも行けない満杯状態です。

それから、ショートステイに入るのも余裕が全くなく、家に帰って来たい、老夫婦で過ごしたい。だけど、私達ではどうにもならないから、ヘルパーさんに来てもらったり、デイサービスに行ったり、ショートに入ったり、実際に留辺蘂はもう余裕が全くないです。

福浦保健福祉課長

課題として今のことは受け止めているんですが、私達も考えてはいます。抜本的解決方法は見つかってはいないんですが、避難者名簿をもうすぐ協定を結べるまで

いったんですけど、協定を結んだ後、名簿を毎年更新する際に、その中で家庭訪問なり安否確認をする予定です。

その中で、なかなか出てこれない独居の方の現状把握はできていると思っていますので、現状把握をしながら、皆さんのお知恵を借りながら取り組んでいきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

稲村副会長

この件については、早急に勉強会を開く必要があります。市の方向性がまだ出ていないので、私が何度言っても、北見市全体は同じであるという考えなんですね。

社協が大体半分ぐらいの仕事を丸投げされているので、社協に聞いても市の方針が出ないうちは動けないと。ただ、状況としては秋までには決めなければならない。国でモデルを出しているわけだから、それをそのとおりやれば、できるかできないかは別の問題なんだけど、やっぱり地域の皆の力を借りて行政と、介護保険のお金を使ってしか実際できないんですよね。新しい施策経費というのはないのだから、これに頼るしかない。

現状を考えてやるような方向をまち協としてもやりましょうよ。

坂口委員

北見と違って、留辺蘂は民生委員が地域を回っているから。

福浦保健福祉課長

委員さんの力も借りる予定です。

坂口委員

自治会の人でも大体知っているから。実態は、ケアマネージャーというのは、1人が持っているのは大体38人なんです。今は介護認定を受けている対象者が400人以上いるんだから。この1年、2年で、エーデルワイスが2人ケアマネージャーがいなくなりました。社協が留辺蘂なくなりました。北見に行きました。

実態的にあるのは、温根湯がはるにれ2人、希楽苑が1人、留辺蘂はケアマネージャーはそんなものしかないんですよ。

北見は、事業所は何ぼでもあるから、その人達が来ればいいんだけど、じゃあヘルパーを入れない。希望しても留辺蘂はうちはやりませんから、地域外ですから、殆んど断られる。

だから、一番悩んでいるのはケアマネージャーです。そのヘルパーのサービス計画もたてられなくて、今、積極的に来てくれているヘルパー事業所は1か所だけです。

だから、そんな実態も保健福祉課あたりがきっちり把握して、緊急優先的に問題解決をどうしなきゃならないかということのを即急にしなかったら、介護保険は回っていかなくなりますよ。留辺蘂自治区は。

稲村副会長

去年から、赤字だからということで、実質事業ができなくなったということで、北見から来ているんだけど、そういう対応でしか現在はできないと。

私等は社協の理事対応で、元に戻せと。需要があるんだし、そういう実態が市でもよく分かってないと。地元の方は分かっているけど、いくら訴えても、現実でそういうことで、どうしようもないから北見に引っ越すとか、子どもの所へ行くとか、札幌に行くとかという現象が既に起きてきている。

そういうことだったら、北見市に住みたいという、言っていることと矛盾するん



ですよ。

だから、早くやってくれと。やっていいよと言ってくれればできる体制が留辺蘂はあるんだということを何年も前から言っているんだけど、とにかく一律じゃないとやらないという考え方なんです。

介護保険のことがあるから、今から途中からやっても、後から後追いできる仕組みになっているから、当座はやれるはずなんです。その上には、我々もそうだけど、各種いろいろな団体の人が本気になって、自分のこととして考えて協力しなかったら、これはうまくいかない。

今、出ていることはやろうと思ったらできるですよ。しなきゃならないし。そして、お互い助け合って、この留辺蘂で生きていきたいと思いますというふうにしなかったら、本当に留辺蘂はなくなりますよ。

坂口委員

今、社協が北見に引き上げちゃったでしょう。留辺蘂は3人のケアマネージャーが入っているんだけど、北見の事務所から10時に留辺蘂に来る。5時に帰らなかったら、書類づくりに間に合わない。一生懸命来てくれるんだけど、アップアップですよ。

先ほど言ったように、平均38人持っている。当然北見も持ったら、留辺蘂はそんなに受けられませんという話です。それが実態だと。これあたりも、これだけ高齢者を持っている留辺蘂自治区は、皆が真剣になって考えなかったらパンクしちゃうよということですよ。

稲村副会長

最近地域力が落ちてきているなど感じるんです。留辺蘂の場合、このぐらいの人口だったら、ケア会議だとか、協議会だとか、民生委員だなんて言ったら駄目なんです。1つの協議体にまとめれば、関係ないのは抜ければいいんだから、いろいろな人が入ってきて、こうしようと決めて皆で協力しあっていくと作業をつくりやすいんです。

だから、本庁に留辺蘂は早くやれと何回も言っているんだから、やるように強かに言ってもらいたいんですよ。自治区長からも勿論、市長にも言ってきたので、皆さんの意見を伺いたいと言っています。

横田会長

時間になりましたけど、最初の方から総括として、皆さんにお願いをしたいことがあります。

基本的には諮問が出された段階で、皆さん方と市長とで話をする機会を持つということとは話をしておきました。基本的にはそういうことなんですけど、行政というのは得てして3年から5年かかるので非常に遅いということは分かっていると思いますけど、でもそれでは、なかなか留辺蘂の人口減少を全ての問題をくい止めることにはなりません。

先ほど、自治区長が言ったように、まち協の皆さん方は地域で、あるいは、団体から推薦されて出てきているわけですから、いろいろな所に行って話をしてもらって、いろいろな人から意見を吸収してください。

それを出たものを、この場所、あるいは、担当課長でもいいですけど話をしていただいて、留辺蘂の今の現状についてきちんと報告をしていただくということは、設置条例にもきちんと載っていますので、是非そういうことでお願いをしてお

きたいと思います。

ご存知のように、先ほどから言っていますことも含めまして、今の留辺蘂の態勢でいきますと、やがて5,900代に突入することも、あと2年先だと思います。

そんなことを含めていきますと、今の予算を見ていて分かると思いますけれども、高齢の対策が先ず早急にやらなきゃいけないことですので、Rネット連携会議をもう一度立ち上げて、先ほど稲村さんが言ったように、全体でどうするかということを考えていく必要性がありますので、連休明けには早急に勉強会を開きたいなというふうに思っております。

その中で、今、出された意見等を総括して、これからどうやっていけばいいのかということ、皆さんの協力を得ないと留辺蘂はもっていけないということだけは、現実の問題としてありますので、ご協力をお願いしたいと思います。

以上で、留辺蘂自治区関係分の予算の報告について終了させていただきます。課長達ご苦労様でした。

## その他

横田会長

これを持ちまして本日の報告案件、すべてを終了させていただきました。次に、皆さんの方から提案したいこととか、言いたいことはございますか。

荒委員

5周年の山の水族館の記念イベントをやると先ほどあったんですが、山の水族館の仕事をしている人達は実際によく頑張っていると思うんですね。

5周年のイベントを成功させて、地域に根ざしたことにしていければすごくいいなと。そういうふうに私は思っています。

五十嵐自治区長

5周年の実行委員会がありまして、水族館の館長が実行委員長をやっています。あとは、温根湯の観光協会の人だとか、皆お手伝いをいただきながらやりますので、きっといいものになると思います。

稲村副会長

我々も年間シーズン券を買って、時々行って直接聞くのが1番いいですよ。私は3か月か4か月に1回しか行かない。年間券を買っているので、節目節目に行ってみると、ここが変わったということがあります。

五十嵐自治区長

2か月か3か月おきに展示を変えていっていますから。

鎌田産業課長

継続して次年度に繋がるような、今年はいろいろなイベントをやるんですけども、先ほどご説明いたしましたマルシェ関係で露天を出して、行政と管理者側で中心になってやっていますけれども、実行委員会が形式できたので、まずは今年やってみて、人がどのくらい来るのかだとか、露天を募集したら、今の北見の周辺の自治区に、1店舗とか、2店舗とか出してもらって、遠い所で網走からも来ますし。

そういうことで、次年度に繋がるようなイベントになればいいなという感じはしています。

横田会長

それでは、事務局。

事務局  
(地域振興係長)

それでは、事務局からお願いなんですけども、平成29年度のまちづくりパワー支援補助金についてなんですけども、4月1日から4月14日までの募集期間において、今年度は、2団体からの応募がありました。

次回第2回のまちづくり協議会が4月27日にありますけど、ここで審査を行うこととしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

閉 会

横田会長

若干8時を経過したんですけども、これをもちまして、第1回留辺蘂まちづくり協議会を終了させていただきたいと思います。

最後ですけれども、5月連休明けに勉強会を行いたいと思います。また、武田さんから是非開拓資料館を見たいということです。

菊池委員

3時以降にやってください。

横田会長

いろいろな所を見ることも必要だから、ちょっと計画はします。都合が悪い方はいますか。時間的に。ということでやらせていただきたいと思いますので、是非参加をしていただきたいと思います。

委員の皆様、大変長時間にわたってありがとうございました。

以上のとおり、まちづくり協議会（第1回）を終了した。

( 20:06 終了 )